

## 執筆者紹介 （掲載順）

### 由 翼

マカオ大学国際関係論教授兼政治学部長。*China's Military Transformation* や *The Armed Forces of China* など4著書に加え、次のような論文を多数寄稿。“Sino-US ‘Cat-and-Mouse’ Game Concerning Freedom of Navigation and Overflight”, *Journal of Strategic Studies*, Vol. 39, No. 5-6, 2016; “China’s Indo-Pacific Strategy”, *Asian Policy*, No. 22, July 2016; “China’s National Security Council: Evolution, Rationality and Operations”, *Journal of Contemporary China*, Vol. 25, No. 96, 2016; “Xi Jinping and PLA Centrality in Managing the South China Sea Disputes”, *China: International Journal*, Vol. 15, No. 2, 2017, “Managing conflicts on Korean Peninsula: a Challenge to China’s national security”, *The Bulletin on Korea Studies*, Vol. 30, 2017, “Managing the South China Sea Dilemma: China’s Strategy and Policy”, in Lowell Dittmer and Ngeow Chow Bing (eds.), *Southeast Asia and China: a Test in Mutual Socialization*, World Scientific, 2017, and “Fragmented Party Control of the Gun: Civil-Military Relations in China”, in Kjek Erik Brodsgaard (ed.), *Chinese Politics as Fragmented Authoritarianism*, Routledge, 2017. また、*The China Journal*, *Issue and Studies*, *Journal of Contemporary China* など8つの学術誌の編集委員会メンバーを務める。

### イース・ジンダルサ

戦略国際問題研究センター（CSIS、ジャカルタ）政治部研究員。ナンヤン工科大学（シンガポール）S・ラジャラトナム国際研究大学院で戦略研究の修士号（2010）、インドネシア大学社会政治学部で国際関係の修士号（2009）を取得。研究分野は軍事技術革新、政軍関係、防衛外交、東アジアにおける地域安全保障複合体など。編纂書籍や、『Defense and Security Analysis』『Contemporary South East Asia』『RSIS Working Paper』『Indonesia Quarterly』などの査読付

き学術誌、ジャカルタ・ポスト紙などの報道媒体に論文や論説を発表している。主な業績は以下のとおり。“Indonesia’s Security Review: Complex but Stable,” in Eiichi Katahara, ed., *Security Outlook of the Asia Pacific Countries and Its Implications for the Defense Sector* (Tokyo: NIDS, 2016), pp. 11-20; Co-authored with Adhi Priamarizki, “Politics, Security and Defence in Indonesia: The Pursuit of Strategic Autonomy,” in Christopher Roberts, Derry Habir, and Leonard Sebastian, eds., *Indonesia’s Ascent: Power, Leadership and Asia’s Security Order* (London: Palgrave Macmillan, 2015), pp. 130-154; Co-authored with Leonard C. Sebastian, “Taking Stock of Military Reform in Indonesia,” in Jurgen Ruland, Maria-Gabriela Manea and Hans Born, eds., *The Politics of Military Reform: Experiences from Indonesia and Nigeria* (Berlin: Springer-Verlag, 2012), pp. 29-56; “Strategic Hedging in Indonesia’s Defense Diplomacy,” *Defense and Security Analysis*, Vol. 32, No. 4 (2016), pp. 336-353; “Regional Order and Military Power in East Asia: China’s Greater Ambitions,” *The Indonesian Quarterly*, Vol. 43, No. 1 (2015), pp. 93-101; “Indonesia’s Diplomacy and Defense Strategies under Yudhoyono,” *The Indonesian Quarterly*, Vol. 42, No. 3-4 (2014), pp. 216-229; Co-authored with Leonard C. Sebastian, “Assessing Military Reform in Indonesia,” *Defense and Security Analysis*, Vol. 29, No. 3 (December 2013); “Democracy and Foreign-policy Making in Indonesia: A Case Study of Iranian Nuclear Issue, 2007-08,” *Contemporary Southeast Asia*, Vol. 34, No. 3 (2012), pp. 416-437.

#### レナート・デ・カストロ

フィリピン（マニラ）デ・ラ・サール大学国際研究学部教授で（現在サバティカル中）、チャールズ・リュ・チー・キン中国研究プロフェッショナル・チェアを務める。2016年9月から12月まで米国-ASEAN フルブライト・イニシアチブ研究員として、ワシントンのイースト・ウエスト・センターに在籍。ハワイのダニエル・イノウエ・アジア太平洋安全保障研究センター卒業生。2009年に米国国務省 ASEAN

研究フェローとなり、アリゾナ州立大学の政治学部に在籍。2001年にフルブライト奨学生としてサウスカロライナ大学行政・国際学部で博士号を取得、学士号及び2つの修士号をフィリピン大学で取得。国防大学及びフィリピン外務省付属外交研究所で国際関係論と安全保障論に関するコースを開講。アルバート・デル・ロサリオ戦略国際問題研究所(ADR研究所)の評議員会メンバーのほか、アキノ政権下でフィリピン国家安全保障会議の顧問を務める。研究対象は、比米安全保障問題、フィリピンの国防・外交政策、東アジアにおける米国の国防・外交政策、東アジアにおける国際政治等。これまでに国際関係及び安全保障に関する論文85本を執筆、フィリピン、日本、韓国、カナダ、マレーシア、フランス、シンガポール、台湾、ドイツ、英国、豪州及び米国の数々の学術誌等に寄稿している。

#### ド・ティン・ハイ

ベトナム外交学院東海(南シナ海)研究所(外務省系シンクタンク)情報分析センターのシニアフェロー兼ディレクターを務める。オーストラリア国立大学で政治戦略研究博士号を取得し、欧州修士課程「国際研究－欧州の視点」でウィーン大学及びヴロツワフ大学合同の修士号を取得。エラスムス・ムンドゥス奨学金、エラスムス・ムンドゥス国際研究コンソーシアムの2008年最優秀卒業生賞、及び豪州首相エンデバー奨学金を受賞。著書 *Vietnam and the South China Sea: Politics, Security and Legality* を2017年にRoutledge社より出版。ほかにも *The ASEAN Forum*、*CSIS PacNet Newsletter*、*Today* 及び *The National Interest* に多数寄稿。

#### 河野 真理子(かわの まりこ)

早稲田大学法学学術院教授、交通政策審議会海事分科会長、前総合海洋政策本部参与(2012年～2016年)等。2009年、オランダハーグ国際法アカデミーで特別講義を行う。講義録は、“The Role of Judicial Procedures in the Process of the Pacific Settlement of International Disputes”, *Recueil des cours*, Vol. 346 (2009), pp. 6-473として出版されている。国連のオーディオビジュアルライブラ

リーで講義のビデオが公開されている。専門は紛争の平和的解決、国際裁判、国家責任及び国際海洋法。

#### ラウル・ペドロゾ

米国防総省次席法務顧問兼米海軍大学 (NWC) スtockton国際法研究センター非常駐研究フェローを務める。国防次官 (政策担当) 特別補佐官、太平洋軍司令官上級リーガル・アドバイザー、米海軍大学国際法担当教授等を歴任。軍及び一般の学術機関で幅広く講義を行うとともに、国際海事機関 (IMO) 等に係る多国間及び二国間交渉に参画。共著の *International Maritime Security Law* (Brill/Martinus Nijhoff Publishers, 2013) のほか、海洋安全保障問題に関する広範な著作がある。ジョージタウン大学 LLM (国際法及び比較法学) 及びオハイオ州立大学 JD。

#### 下平 拓哉 (しもだいら たくや)

防衛省防衛研究所理論研究部主任研究官兼特別研究官付 (政策シミュレーション)。1等海佐。政治学博士。2014年から2016年、米海軍大学客員教授 (統合軍事作戦)。2016年より防衛研究所。インド・アジア・太平洋地域の海洋安全保障を中心に研究。主な著作に、「中国初の空母就役の意義」浅野亮・山内敏秀編著『中国の海上権力 海軍・商船隊・造船 - その戦略と発展状況』(創土社、2014年)、「The Japan Maritime Self-Defense Force in the Age of Multilateral Cooperation,」 *Naval War College Review*, Vol. 67, No. 2 (Spring 2014)、「Cooperating in the South China Sea,」 *Proceedings*, Vol. 141/4/1. 346 (April 2015)。

#### 永福 誠也 (えいふく せいや)

防衛省防衛研究所理論研究部政治・法制研究室所員。2等海佐。横浜国立大学大学院博士課程修了。博士 (学術)。海上自衛隊第42期一般幹部候補生課程修了後、護衛艦砲術長等を経て、海上幕僚監部防衛部運用課員、海上自衛隊幹

部学校研究部員、自衛艦隊司令部法務幕僚として勤務。2016年より現職。海洋法、武力紛争法、国際刑事法を中心に研究。主な著作に『国際刑事裁判所規程第28条にみる上官責任の考察』(内外出版、2014年)

## 安全保障国際シンポジウム 「アジア太平洋における海洋秩序の維持」

平成 29 年 7 月 19 日

開会あいさつ 中村 範明 (防衛研究所所長)  
防衛省代表あいさつ 小林 鷹之 (防衛大臣政務官)  
趣旨説明、発表者の紹介 坂口 賀朗 (防衛研究所研究幹事)

### 第 1 セッション「南シナ海問題の今」

司会：庄司 智孝 (防衛研究所米欧ロシア研究室長)  
発表者  
由 翼 (マカオ大学教授)  
イース・ジンダルサ (戦略国際問題研究センター研究員)  
レナート・デ・カストロ (デ・ラ・サール大学教授)  
ド・タイン・ハイ (ベトナム外交学院南シナ海研究所教授)  
コメンテーター  
飯田 将史 (防衛研究所中国研究室主任研究官)

### 第 2 セッション「海洋における法の支配と海洋秩序の維持」

司会：橋本 靖明 (防衛研究所政策研究部長)  
発表者  
河野 真理子 (早稲田大学教授)  
ラウル・ベドロゾ (米海軍大学教授)  
下平 拓哉 (防衛研究所社会・経済研究室主任研究官兼特別研究官付)  
永福 誠也 (防衛研究所政治・法制研究室所員)  
コメンテーター  
佐竹 知彦 (防衛研究所防衛政策研究室主任研究官)

### 第 3 セッション「総合討議」

司会：庄司 智孝 (防衛研究所米欧ロシア研究室長)

閉会あいさつ 飯盛 進 (防衛研究所副所長)

(肩書きは当時)